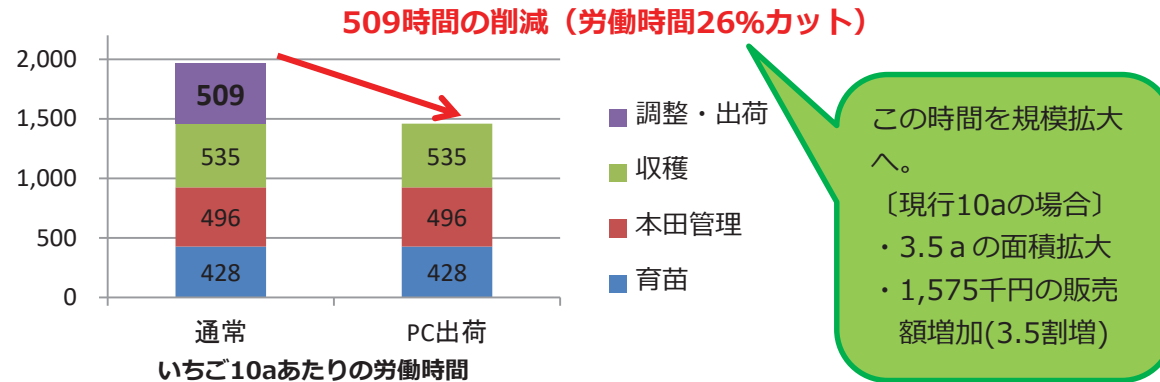


選果・選別・調整作業の労力軽減のため広域集出荷施設を整備、削減された時間を面積拡大に投入（農業労働力支援とセット）

広域集出荷施設利用による労力削減（福岡県のいちごの事例）

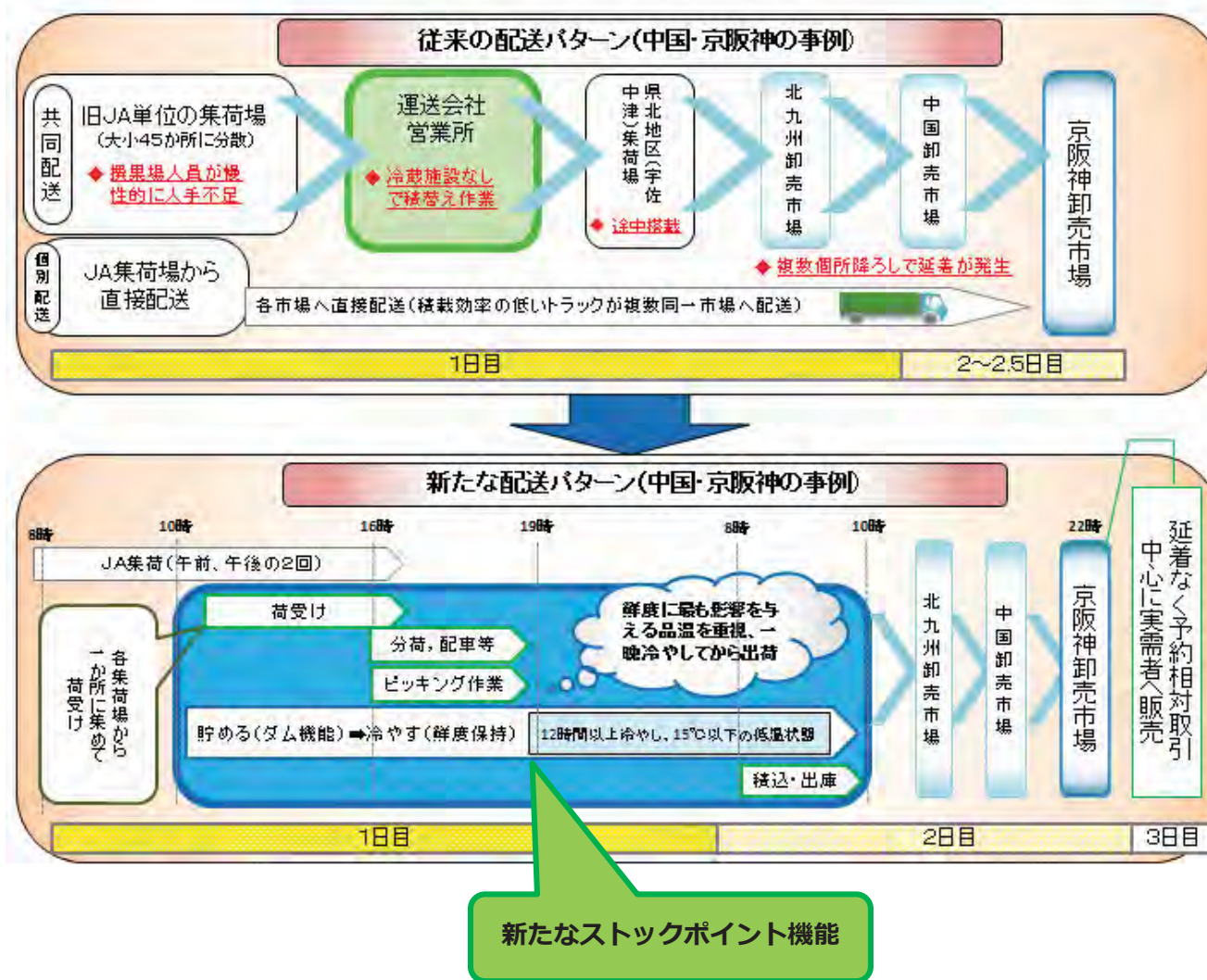


福岡県本部県南V Fステーション（平成30年11月稼働）におけるバラ出荷したいちごのパック詰め作業



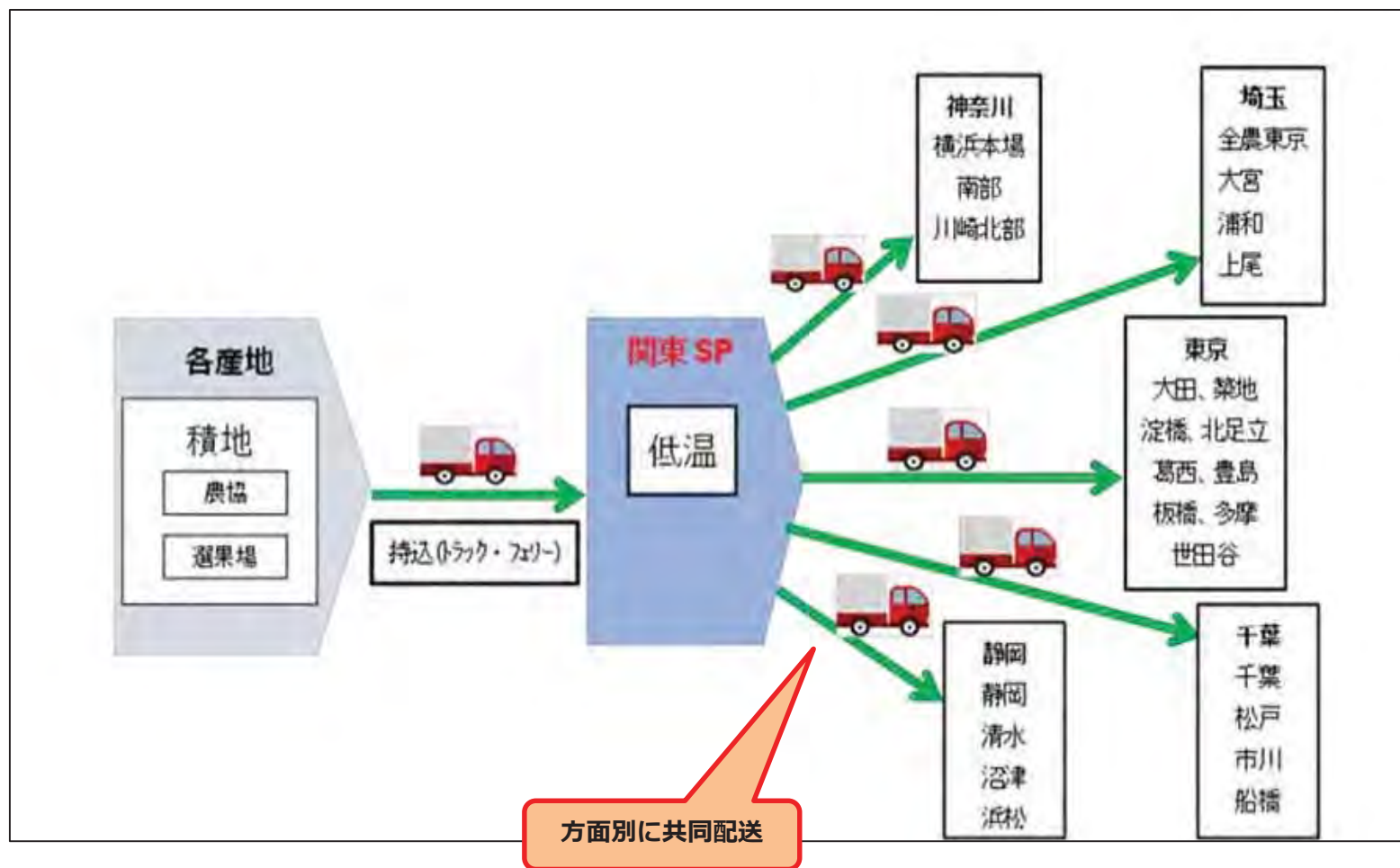
消費地・産地ストックポイント（S P）の利用拡大・整備推進、 青果物のパレット輸送の拡大推進による輸送体制の整備

産地S Pの設置（大分県本部の事例、平成31年6月～）
県内各集荷場から一カ所にまとめ、予冷後、行き先別に共同配送。



消費地・産地ストックポイント（SP）の利用拡大・整備推進、 青果物のパレット輸送の拡大推進による輸送体制の整備

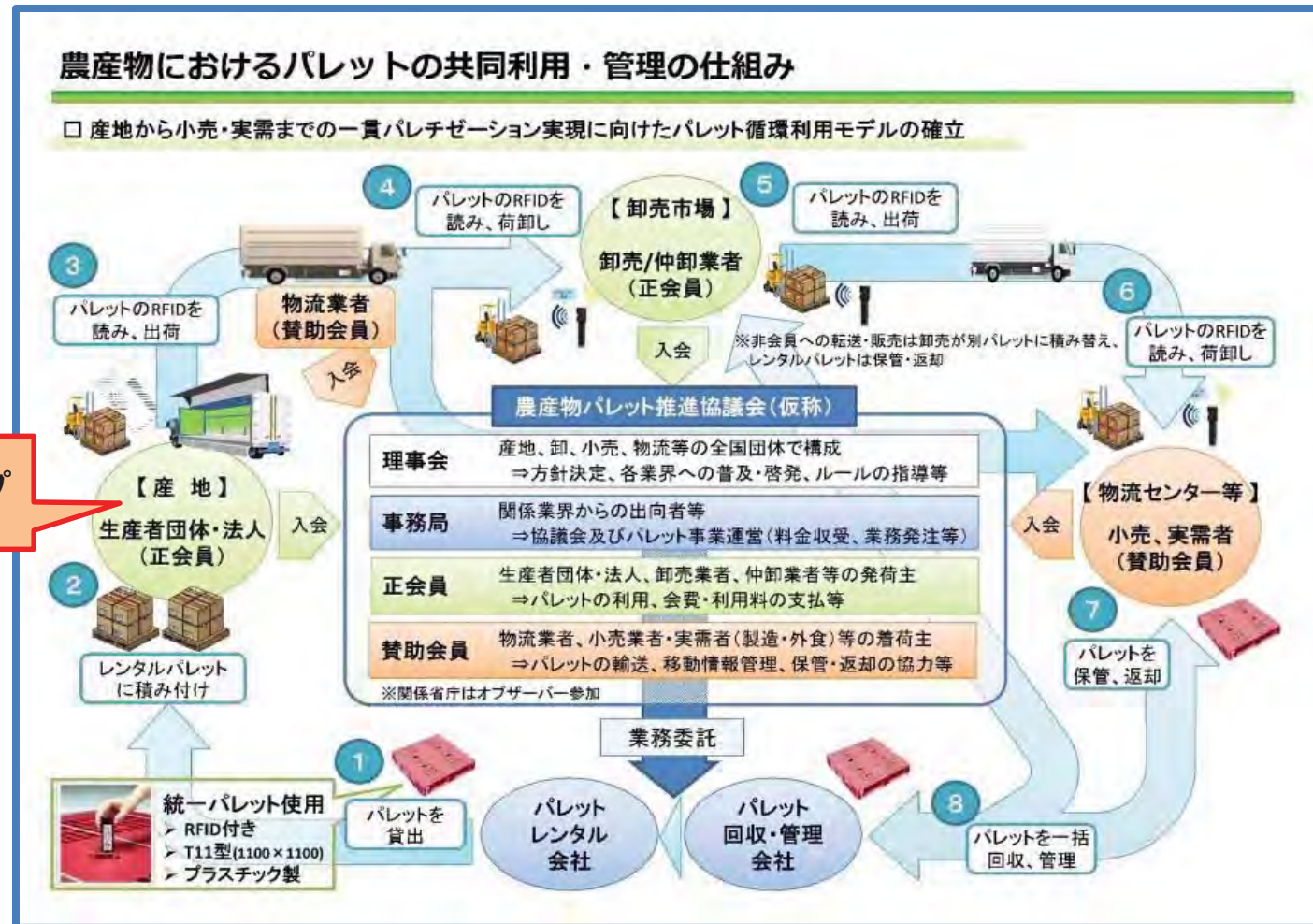
消費地SP（関東SP）の概要



消費地・産地ストックポイント（SP）の利用拡大・整備推進、 青果物のパレット輸送の拡大推進による輸送体制の整備

「農産物パレット推進協議会」の取り組み（平成30年8月設立）
産地・流通事業者・物流事業者が連携し、一貫パレチゼーションの実現に向けてレンタルパレットを活用した循環利用モデルを構築

J Aグループ



3つの重点施策を投入し、 地域農業生産振興と生産基盤の確立を実現

① 生産性を向上させる 新技術



② 労働力支援

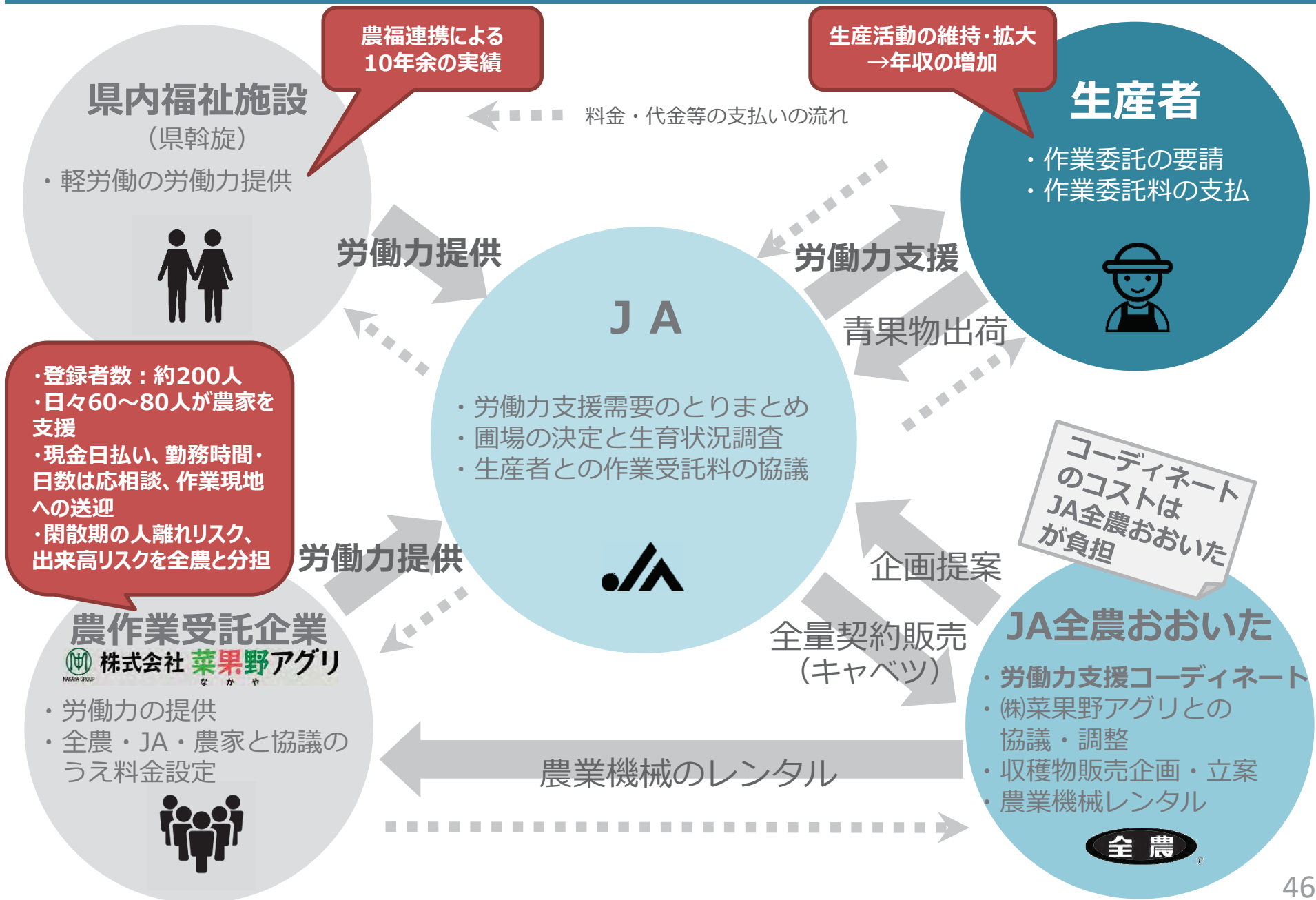


③ ICTの活用

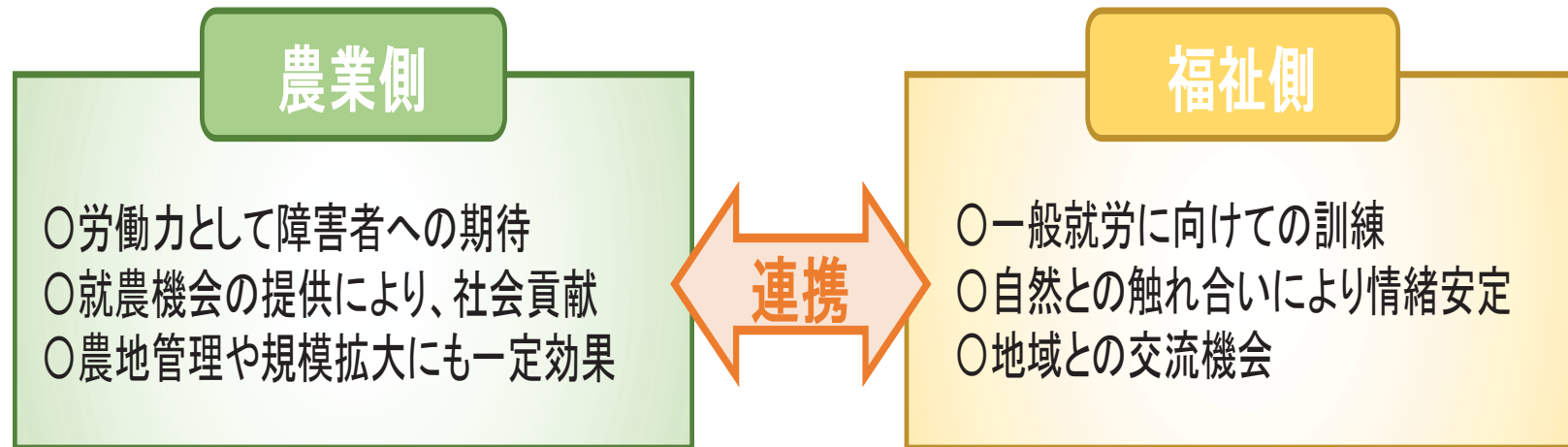


※(株)ナイルワークス提供

JA全農おおいたで実施している「労働力支援」の概略



農福連携のポイント

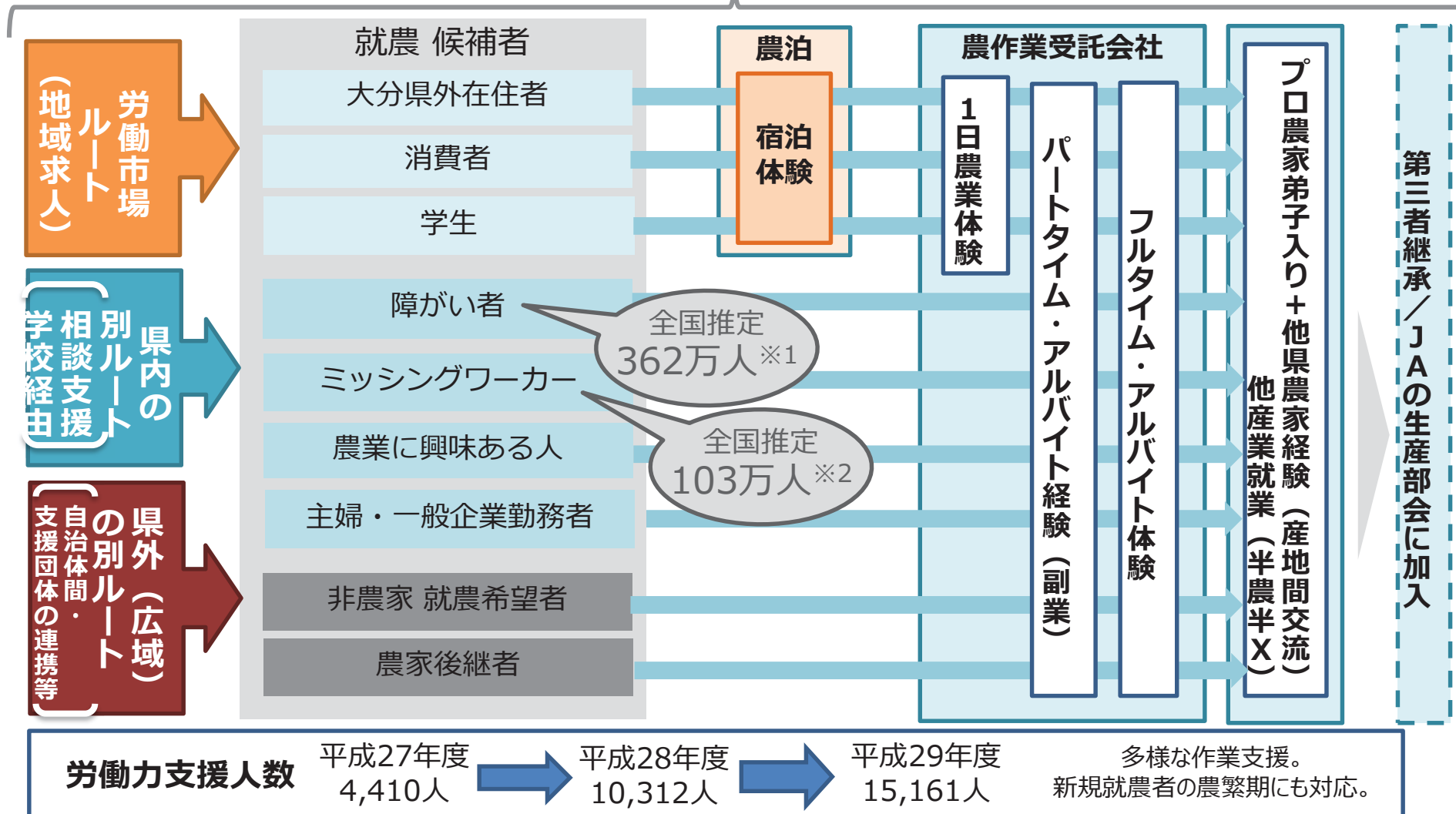


農業分野で障害者の就労を支援し、農業にとっての担い手不足解消、
障害者にとっての職域拡大や働くことでの収入拡大につなげる。

一人一人に農業機会をマッチングし、 農業を目指す方に多様な就農形態を提案

JA全農おおいたは、「初心者からプロ農家志望者まで、一人一人にマッチした農業機会をマッチングします」
農作業受託会社は、「大分県農家中心に一直線ではない、多様な就農形態を提供します」

JA全農おおいたがマッチング&プロデュース

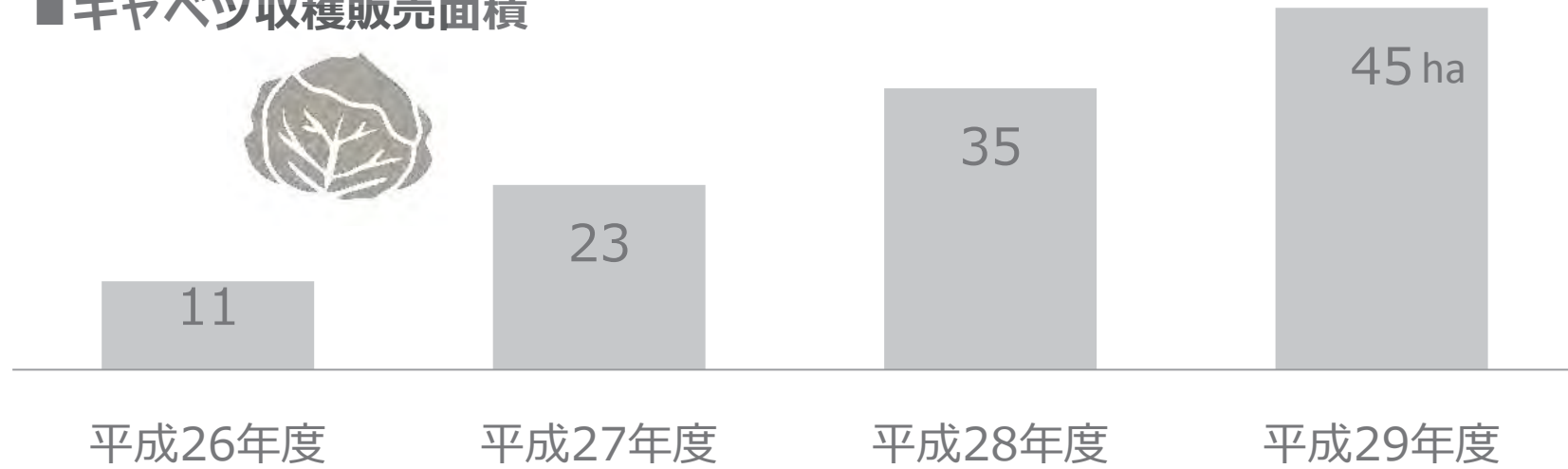


※1 障がい者937万人のうち雇用施策対象者 (2018, 農水省資料)

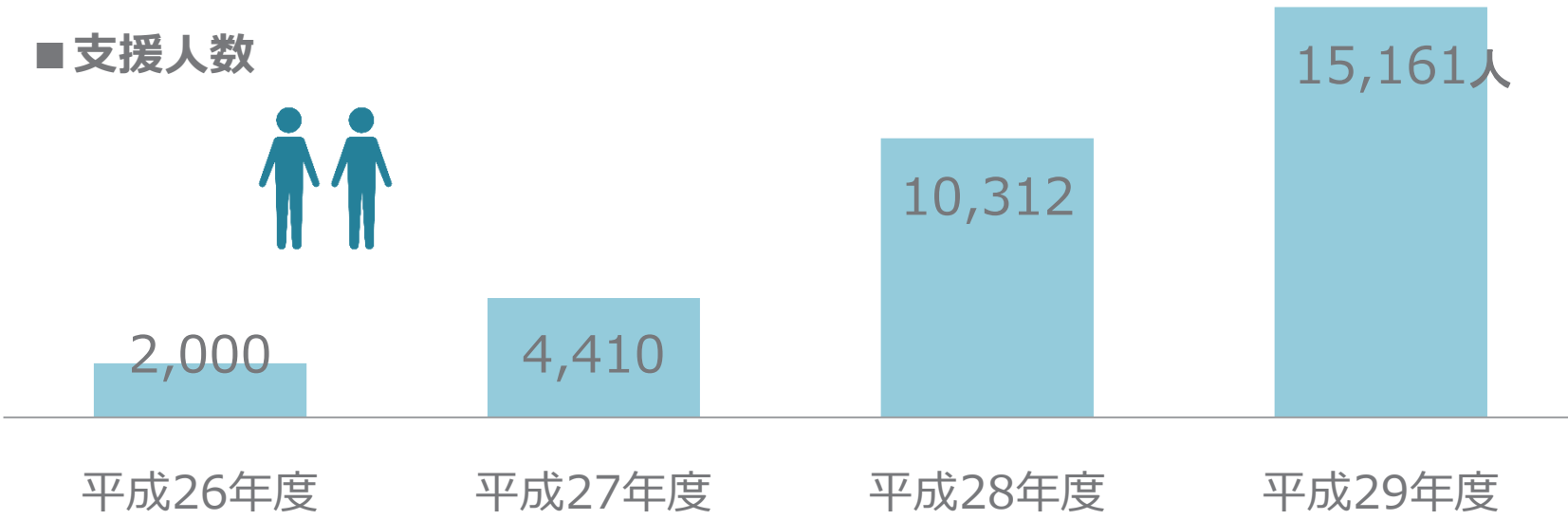
※2 NHKスペシャル報道 (2018)

拡大する労働力支援～大分県内・キャベツ収穫の例～

■キャベツ収穫販売面積



■支援人数

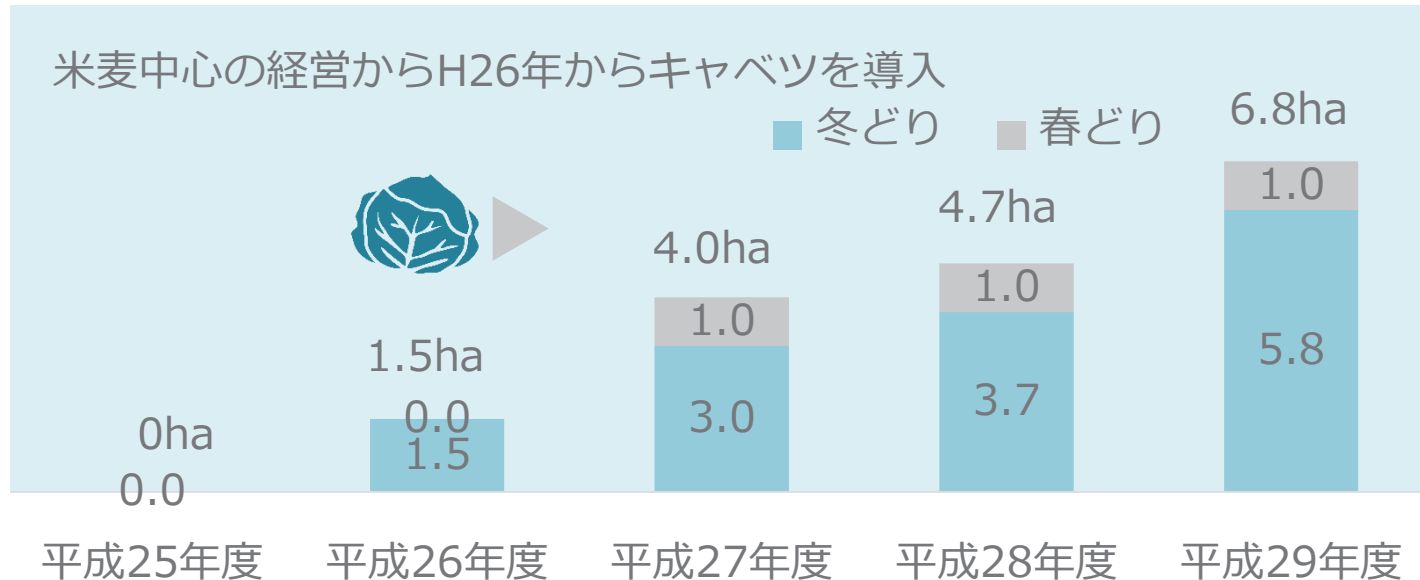


労働力支援の高位平準化を目指す

労働力支援による農家所得増大の事例 キャベツ生産者A氏の事例（大分県中津市）

大分県中津市のA氏はこれまで土地利用型農家で米麦を中心とした経営でしたが、労働力支援を活用し、キャベツを導入するなど農業粗収入を679万円増大することができました。

■キャベツ導入の推移



■キャベツ導入による農業粗収入の推移

| | 平成25年度 | | 平成28年度 | |
|------------|-------------|----------------|---------------|----------------|
| | 面積 | 粗収入 | 面積 | 粗収入 |
| キャベツ (冬・春) | 0ha | 0万円 | 4.7ha | 609万円 |
| 米 | 13.0ha | 1,140万円 | 15.0ha | 1,190万円 |
| 麦 | 15.0ha | 850万円 | 14.0ha | 870万円 |
| 合計 | 28ha | 1,990万円 | 33.7ha | 2,669万円 |

キャベツ + 労働力支援

679万円アップ